

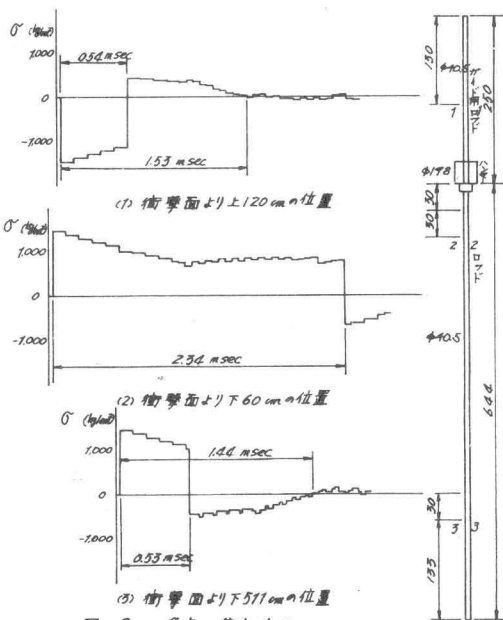


図-2 各点の基本波形

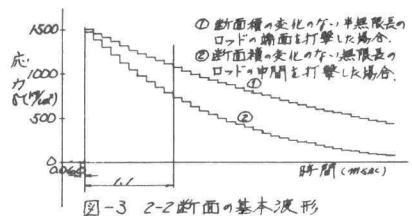


図-3 2-2断面の基本波形

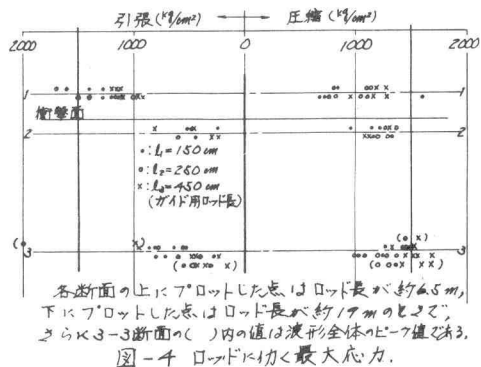


図-4 ロッドに伝わる最大応力

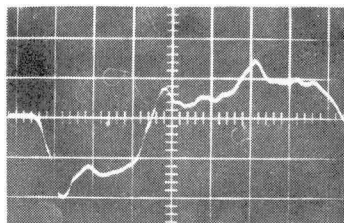


写真-1, 1-1断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 6.4 \text{ m}$

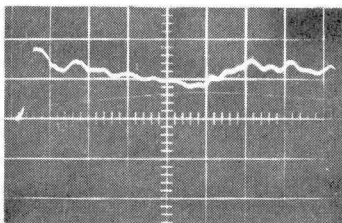


写真-2, 2-2断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 6.4 \text{ m}$

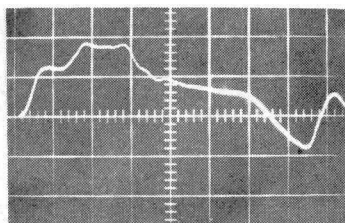


写真-3, 3-3断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 6.4 \text{ m}$

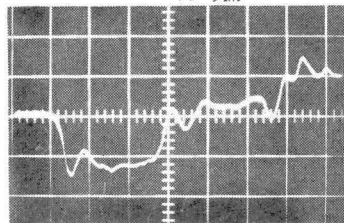


写真-4, 1-1断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 18.94 \text{ m}$

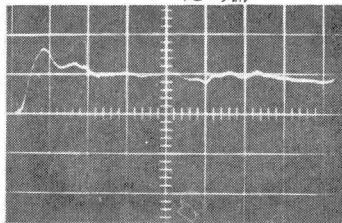


写真-5, 2-2断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 18.94 \text{ m}$

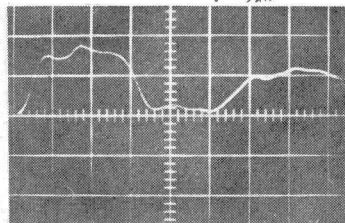


写真-6, 3-3断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 18.94 \text{ m}$

写真-1~6 は掃引時間一定 (0.2 msec/div)

5. まとめ この観測は初歩的段階にあり、結論にはいたっていない。しかしつぎのような問題点が考えられる。貫入ロッド先端部近辺のゲージはつけ位置、これは測定応力のバラツキの度合から考えられることであり、応力波の反射、透過量も定量的に求められるようにするために必要である。

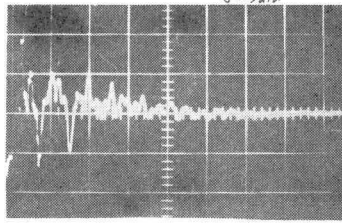


写真-7, 3-3断面 $l_c = 2.5 \text{ m}$, $l = 4.5 \text{ m}$

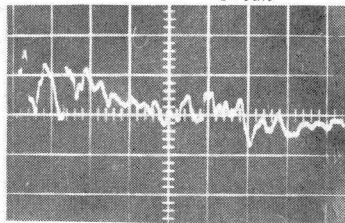


写真-8, 3-3断面 $l_c = 18.94 \text{ m}$, $l = 2.5 \text{ m}$